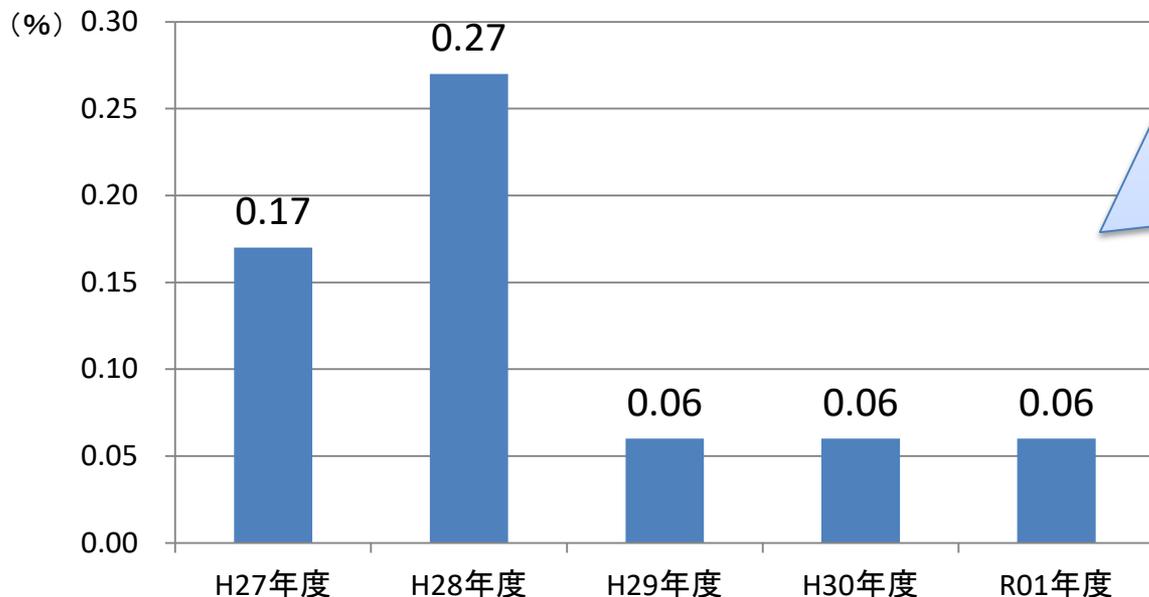


手術あり患者の肺塞栓症の発生率

■ 解説: **outcome** 指標

肺塞栓症はエコミークラス症候群ともいわれ、血のかたまり(血栓)が肺動脈に詰まり、呼吸困難や胸痛を引き起こし、死に至ることもある疾患です。長期臥床や下肢または骨盤部の手術後に発症することが多く、頻回の体位交換、手術中に弾性ストッキングを足にはかせるなどして適切に予防することが必要です。これは、肺塞栓症予防に対する病院全体の取り組みの結果を表す指標です。

■ 当院の実績



《自己点検評価》

当院においては、肺血栓塞栓症リスクが高い特定手術後の患者さんには、弾性ストッキング等の使用により、今後も引き続き肺塞栓症発生の予防対策を実施し、重症化を予防するとともに、発生率の減少に努めます。

■ 定義

平成26年度より、国立病院機構臨床評価指標計測マニュアルVer3.0に従って、分母を「入院患者」から「肺血栓塞栓症のリスクレベルが「中」以上の手術を受けた患者」に変更。肺塞栓症リスクの高い患者に対する、肺塞栓症の発生率(%)です。

■ 算式

発生率(%)

■ 令和元年度国立大学病院報告書: 中央値0.14